旧東京第二陸軍造兵廠
深谷製造所

―痕跡からひもとくふかや―

③中島飛行機 太田製作所

中島飛行機は日本陸海軍の多くの軍用機を開発、生産していた会社。群馬県太田市に工場があり、陸軍の軍用機を製造していた。

そのため米軍のB-29 による空襲がおこなわれていた。(持田氏の日記)

深谷市にあった現 アイテックと新井製作所の会社HPには中島飛行機に部品を納入していたと記されていた。

中島飛行機本社写真

③中島飛行機 小泉製作所

- 中島飛行機の中でも海軍の機体を生産していた製作所。
- 小泉製作所管内の工場が深谷市内にも存在した。
- こちらもB-29 の空襲がおこなわれていた。(持田氏の日記)

太田、小泉周辺図(『富士重工業三十年史』より)

労働宿屋

- 造兵廠で働いていた日本人・朝鮮人が住んでいた建物。
- 日本人は深谷市天神町、朝鮮人は深谷市原郷に住んでいた。

(深谷市役所作成の地図を加工し作成)

明戸工場について

- 1943 年、日本煉瓦の工場の敷地を軍が一部買い取り強制的に工場にしたもの。煉瓦も軍事的において重要な物資だったため煉瓦工場自体は存続され、稼働していた。
- 煉瓦工場の運搬に使われていた専用鉄道(現 遊歩道)も買収され共用することになった。

1960年頃の煉瓦工場空中写真
赤矢印は専用鉄道を示している

東京第二陸軍造兵廠とは？

- 旧陸軍による火薬を専門に製造をおこなった造兵廠のこと。
- 主に小銃の弾丸やニトログリセリンなどを製造していた。
- 同系列製造所
  - 板橋製造所（東京都）
  - 多摩製造所（東京都）
  - 岩鼻製造所（群馬県）など

製造品説明

綿火薬（原郷、明戸、櫛引）
ＮＧ（ニトログリセリン）（明戸、櫛引）
無煙火薬（原郷、明戸、櫛引）
九九式普通実包（原郷、明戸、櫛引）
航空機用ロケット発射薬（櫛引）
明戸工場のＮＧを原郷工場に輸送して航空機用ロケット発射薬を製造していた。

表 6-19 深谷製造所の生産設備

設備名称	月産能力	型式
	トン	
綿薬製造装置	250	旋回式及トムソン式
ニトログリセリン製造装置	70	ナサン式
無煙薬製造装置	115	溶剤式、螺旋型押式

注 日本兵器工業会資料『終戦直後の造兵廠現況調』より作成。

④旧東武妻沼線跡

- もともと軍の命令で建設された路線で、戦争末期に群馬県太田市の中島飛行機太田製作所への輸送を目的として熊谷駅 － 西小泉駅間の建設が計画され、1943 年 1 月に熊谷駅 － 妻沼駅間が開業した。
- しかし、終戦を迎え、利根川を挟んで南北に分断された形で営業をおこなうことになった。その南側が妻沼線である。(現在は廃線)

当時使われていた車両
(妻沼中央公民館で公開)

⑤旧東京第二陸軍造兵廠 岩鼻製造所

- 1882(明治 15)年の操業開始から 1945(昭和 20)年の 64 年にわたり日本の火薬、ダイナマイトを製造していた。
- 現在は**群馬県立「群馬の森」公園**になっている。
- そして、深谷製造所に岩鼻製造所から技術者が訪れ、火薬製造の指導をおこなっていた。
- また、岩鼻製造所でも誤爆事故が 4 回起こっており、それによる殉職者も出ている。

明戸工場地図

持田秀之氏の日記

- 持田氏は当時の県立深谷商業高等学校の学生であり、勤労奉仕として明戸工場において勤務していた。
- その当時に記録していた「学生日誌」が残っており、1941 年の開戦から 1945 年の終戦までが一人の少年の目線で書き記されている。その中に明戸工場を始め当時の深谷について多くが記されている。
- 現在この「学生日誌」は、2010 年に東松山市の埼玉県立平和資料館(ピースミュージアム)に寄贈されている。

なぜ深谷に製造所を作ったのか？

1　製造所の疎開地

- 旧東京第二陸軍造兵廠の板橋・多摩製造所(東京都)、岩鼻製造所(群馬県)が空襲などで使えなくなるかもしれないため、製造所を疎開する必要があった。
- 兵器の増産が計画されていたため、板橋製造所よりも大型になった。
- 板橋製造所　約 15 万坪
- 深谷製造所　約 21 万坪
- 多摩製造所　約 28 万坪
- 岩鼻製造所　約 32 万坪

2　交通設備の利点

Ⅰ. **中山道**（現 国道 17 号）も通っていたためトラックなどの輸送も容易であった。
Ⅱ. 日本煉瓦の工場から深谷駅をつなぐ**専用路線**があった。
Ⅲ. 専用路線の近く工場からそのまま**高崎線**で物資の運搬が可能であった。
Ⅳ. 深谷駅の近くに**軍用地**があった。(後に櫛引工場になる)

3　近隣施設の関連

Ⅰ. 当時、日本軍の軍用機を作っていた**中島飛行機**の製作所が群馬県太田市にある。
Ⅱ. 旧陸軍の**熊谷陸軍飛行学校**が埼玉県熊谷市にある。
Ⅲ. 同造兵廠の**岩鼻製造所**が群馬県高崎市にある。
つまり、深谷に製作所を置くことにより物資の輸送や完成品の運搬、戦災による生産機能停止リスクの分散がおこないやすかったことがあげられる。

4　耐火煉瓦の製造

- 日本煉瓦工場の煉瓦が軍の建物の土台に使われていたため品質に問題がなかった。(岩鼻製作所で使用)
- 建物に使われていたと思われる煉瓦が原郷工場敷地跡に存在する。

旧日本煉瓦株式会社ホフマン 6 号窯

月産65万個の生産能力があり、現在では全国で四機しか存在しない。そのうちの一つが深谷にある。

旧日本煉瓦株式会社ホフマン 6 号窯
(深谷市HPより引用)

群馬の森の施設

内部の石碑

倉庫跡

共栄門跡

⑥旧日本煉瓦株式会社 明戸工場

- 渋沢栄一が深谷市血洗島に建てた煉瓦工場がきっかけである。
- 1943 年に工場の半分と専用鉄道が軍に買収された。この土地で作られたのが**深谷製造所明戸工場**である。
- 戦後深谷製造所明戸工場の土地と専用鉄道が返還され、新たに窯が建築された
- 1985 年に深谷製造所明戸工場の土地を深谷市が買収、現 深谷浄水センターになっている
- 2006 年に日本煉瓦株式会社廃業

学徒動員について

- 現 県立深谷商業高等学校、県立深谷第一高等学校、埼玉大学、 法政大学、桐生高専などの学生が動員された。
- 深谷製作所の学徒動員は 750 名である。
- 朝 5 時 30 分起床、7 時開始～18 時帰寮　20 時 30 分まで自習、21 時消灯
- 火薬製造のほかに農作業や朝鮮人指導補佐も行っていた。

櫛引工場について

- 元々軍用地として持っていた土地を改修して工場になった。
- 残存してないが深谷駅-櫛引工場の専用鉄道も走っていた。(持田氏の日記)1944 年 7 月 15 日開通。
- 設計当時の工場敷地内の地図が残っている。
- 圧縮室が残っている(私有地)

まとめ

- なぜ深谷に製造所を作ったのか？
  1　旧東京第二陸軍造兵廠の疎開地であったこと
  2　高崎線、中山道、専用鉄道の交通インフラが整っていたこと
  3　中島飛行機、児玉・熊谷陸軍飛行場、岩鼻製作所など軍用施設が近くに立地していたこと
  4　深谷で生産されていた耐火煉瓦が重要な建築材料として重宝されており、軍需品としての価値を持っていたこと。

感　想

今回研究するにあたり、当時の施設などからの情報がとても少なかったが、地元の情報提供者の方々をはじめ、多くの協力により完成することができた。

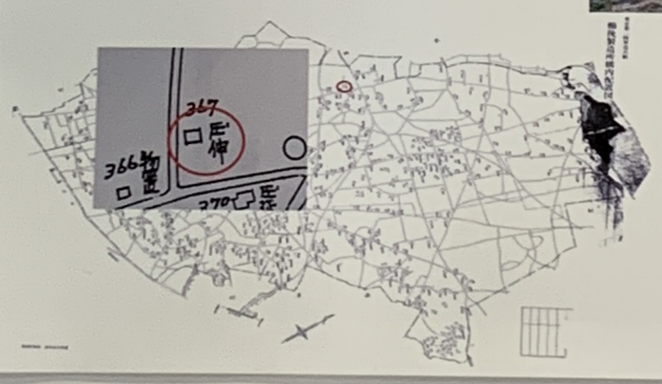
しかし、情報提供者の方々の高齢化や戦争遺構の老朽化も進み、深谷市の開発地域になっていたこともあって、当時の資料を集めるのには困難が伴った。

今回調査していく中で市役所の方々も資料や情報収集に苦労されている様子であった。

私は今回の発表を通じて、皆様にお伝えするとともに、地元の深谷市の歴史を次の世代に語り継ぎたいと思いを強く抱いた。

圧伸室跡

櫛引工場に現存する唯一の建造物。
コンクリート二階建ての建物。
敷地内図よりこの建物は弾薬庫ではなく、圧伸室であったことが判明した。
圧伸室:当時情報の主流であったモールス電信を発信、着信などをおこなう施設



原郷工場について

1943 年、土地を買収し作った工場である。
工場本部は**県立深谷女学校**(現 県立深谷第一高等学校)に置かれ、将官が滞在していた。
近隣の学生が(現 県立深谷商業高等学校、県立深谷第一高等校、埼玉大学など)雇われ、従事していた。
また、朝鮮人労働者も従事していた。
1946 年工場の事務棟を利用し新制中学校である、
深谷市立幡羅中学校が開校する。
幡羅中学校のグラウンドから弾丸が見つかり、1982 年に臨時休校になったこともある。

遊歩道（旧引き込み線跡）

- 日本煉瓦(明戸)工場から深谷までをつなぐ専用路線であり、明戸工場建設と同時に日本軍に買収された。
- 原郷工場付近にはプラットホームらしき跡がある。
- 戦後は、日本煉瓦株式会社に返還され、今は遊歩道になっている。

参考文献

深谷市史(深谷市)
広報ふかや2012年7月号(深谷市役所)
旧東京第二陸軍造兵廠深谷製作所給水塔
(栗原知恵 様)
日本煉瓦一〇〇年史(日本煉瓦製造株式会社)
埼玉の戦争遺跡(まつやま書房)
中島飛行機と学徒動員(みやま文庫)
浦和市史　第四巻近代史編(浦和市)
朝鮮人強制連行調査の記録　埼玉版・中間報告
(埼玉県朝鮮人強制連行真相調査団)
寄居町史(寄居町教育委員会)
持田氏の日記(埼玉県立平和資料館)
アルバムによる深谷の今昔(下山二男 様)

ご協力いただいた皆様

深谷市役所
深谷市立図書館
深谷市立常盤小学校
深谷市立幡羅中学校
埼玉県立深谷第一高等学校
埼玉県立平和資料館(ピースミュージアム)
埼玉県立文書館
埼玉県立熊谷図書館
田島御一家 様
柳瀬勝 様
持田秀之 様

- 埼玉県立本庄高等学校
  住所：埼玉県本庄市柏１丁目４－１
  ＴＥＬ 0495-21-1195　ＦＡＸ 0495-25-1024
  考古学部　横山 響来

軍事関連施設

①熊谷陸軍飛行学校(現 航空自衛隊熊谷基地)
②児玉飛行場(現 児玉工業団地)
③中島飛行機太田、小泉製造所 (現 SUBARU、新井製造所、アイテック)
④旧東武妻沼線跡
⑤旧東京第二陸軍造兵廠岩鼻製造所(現 群馬の森公園)
⑥旧日本煉瓦株式会社明戸工場

深谷市周辺配置図 (1943 年頃)

深谷市地図

1947年頃の原郷工場空中写真(国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス)

①熊谷陸軍飛行学校

- 1935年に創設され、1938年には昭和天皇が行幸なされた。
- 軍用機を使った訓練も行われ、当時は滑走路もあった。
- また戦局の悪化から次々に分校ができるくらいの規模だった。
- 現在は航空自衛隊熊谷基地になっている。

熊谷陸軍飛行学校の校舎写真

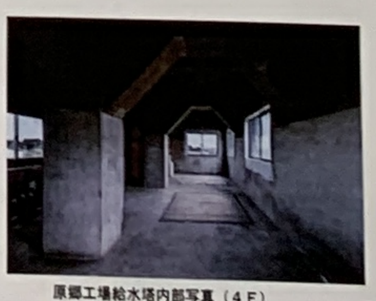
②児玉陸軍飛行場

- 現 本庄市児玉工業団地から金鑽神社までという広大な敷地を持った飛行場。実際には、熊谷学校の分校という扱いだった。
- そしてここには特攻隊が編成され前線基地に配備されたという話がある。
  (ただし出撃前に戦争が終わったことにより戦死者なし)
- 配備されていたのは一式双発高等練習機であり金鑽神社付近に格納庫があったと　碑に記述がある。
- 米軍のグラマン艦戦による空襲も確認されている。

児玉飛行場の写真

ヨブ塔（給水塔）跡

- 現在唯一残っている建造物である。
- 使用済み溶剤を蒸留して再生する設備 「**溶分離塔**」の跡(略称:ヨブ塔)である。
- “給水塔”と呼ばれる。
- 病院塔や燃料製造塔などの仮説もある。
- 現在は私有地になっている。
- 今は原郷工場にしか現存しないが、当時は明戸工場、櫛引工場、にも存在していた。(櫛引工場の写真あり)



原郷工場給水塔内部写真（４Ｆ）
塔所有者　栗原様より

櫛引工場の給水塔写真